

岡山大学記者クラブ

文部科学記者会

科学記者会

御中

令和 7 年 11 月 5 日

岡 山 大 学

高齢者に対するロボット支援膵切除術の安全性を報告

◆発表のポイント

- ・岡山大学病院肝・胆・膵・外科では、保険適用に合わせて 2020 年よりロボット支援膵切除術の導入を開始しました。
- ・今回、国内有数の High volume center（特定の治療・手術実績が豊富な施設）である藤田医科大学と協力し、高齢者に対するロボット支援膵切除術の有効性と安全性を報告しました。

岡山大学病院は、藤田医科大学と協力して、多施設共同研究を行ってきました。今回、岡山大学学術研究院医療開発領域（岡山大学病院）所属の、肝・胆・膵外科の高木弘誠講師、藤田医科大学病院肝胆膵外科の高原武志教授らのグループは、高齢者に対するロボット支援膵切除術の安全性と有効性を検証しました。

これらの研究成果は 9 月 17 日、欧州のがん関連研究学術誌「*Cancers*」に掲載されました。

高齢化社会に伴い、近年、肝胆膵外科領域でも高齢の患者さんが増加しています。膵臓手術は手術での侵襲が大きいと、基礎疾患の多い高齢者に対する手術適応は慎重に判断する必要があります。

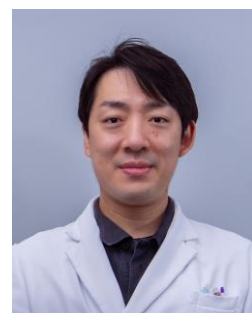
2020 年 4 月から 2024 年 12 月の間に、岡山大学病院と藤田医科大学病院で実施したロボット支援膵切除術を受けた 380 人の患者のうち、59 人（15.5%）が 80 歳以上の高齢者でした。高齢者は基礎疾患、悪性疾患が多く、非高齢者（79 歳以下）と比較して術後の入院期間は長かったものの、合併症の発生頻度は同等でした。

本研究成果は、合併症の少ない低侵襲手術であるロボット支援手術の高齢者に対する安全性と有効性を示しました。今後、さらなる高齢者に対する治療成績の改善に役立つことが期待されます。

◆研究者からのひとこと

高齢の患者さんは近年増加傾向にあります。高齢者に対しては、手術での侵襲が大きい膵臓手術の適応は慎重に判断する必要がありますが、今回、高齢者に対するロボット支援膵切除術の安全性と有効性を示すことができました。

安全で合併症の少ないロボット支援手術の重要性を改めて確認でき、さらなる高齢者の治療成績の改善に努めたいと思います。



高木講師



PRESS RELEASE

■発表内容

<現状>

高齢化社会に伴い、近年、肝胆膵外科領域でも高齢の患者さんは増加しています。高齢者は基礎疾患が多いため、手術での侵襲が大きい膵臓手術を高齢者に適応することは慎重な判断が求められます。本邦では、2020年に低侵襲手術であるロボット支援膵切除術が保険適用となり、徐々に普及しつつありますが、高齢者に対するロボット支援膵切除術の安全性と有効性は明らかにされていませんでした。

国内有数のロボット支援膵切除術の High volume center である岡山大学病院と藤田医科大学病院が協力して、高齢者に対するロボット支援膵切除術の安全性と有効性を検証しました。

<研究成果の内容>

今回、岡山大学病院と藤田医科大学病院でロボット支援膵切除術を実施した患者380人を対象に、80歳以上の高齢者（59人）と79歳以下の非高齢者（321人）の治療成績を術式別に検討しました。

ロボット支援膵頭十二指腸切除術では、手術時間や出血量は高齢者（36人）、非高齢者（177人）で同等であり、術後入院期間は高齢者22日、非高齢者14日と高齢者で入院期間は有意に長かったものの、膵液漏や胆汁漏などの重篤な合併症頻度は同等でした。

ロボット支援膵体尾部切除術でも、手術時間や出血量は高齢者（23人）、非高齢者（144人）で同等であり、術後入院期間は高齢者14日、非高齢者10.5日と高齢者で入院期間は有意に長かったものの、膵液漏などの重篤な合併症頻度は同等でした。

さらに、ロボット支援膵切除術後の重篤な合併症のリスク因子解析では、年齢（80歳以上）はリスク因子ではありませんでした。

<社会的な意義>

本研究では、高齢者に対するロボット支援膵切除術の安全性が確認されました。今回の研究成果は、今後各医療機関で治療方針決定の参考となることに加え、最終的には高齢者全体の治療成績の向上が期待されます。一方で、膵臓の手術は侵襲が大きい手術です。手術の身体的負担を考え個々の患者さんに適した手術を行うことが重要です。当院で積極的に取り組んでいるロボット手術と多職種による周術期の細やかなサポート体制が、術後の社会復帰、最終的には高齢者のさらなる治療成績につながると期待しています。

■論文情報等

論文名：Outcomes of Robotic Pancreatectomy in the Octogenarian: A Multicenter Retrospective Cohort Study
掲載誌：Cancers

著者：Kosei Takagi, Yuichiro Uchida, Tomokazu Fuji, Takeshi Takahara, Kazuya Yasui, Takeyoshi Nishiyama, Ichiro Uyama, Koichi Suda, Toshiyoshi Fujiwara

DOI：<https://doi.org/10.3390/cancers17183038>



PRESS RELEASE

★発表論文はこちらからご確認いただけます。

<https://www.mdpi.com/2072-6694/17/18/3038>

＜お問い合わせ＞

岡山大学学術研究院医療開発領域（岡山大学病院 肝・胆・膵外科）

講師 高木 弘誠

（電話番号）086-235-7257 （FAX）086-221-8775

（URL）<http://www.ges-okayama-u.com/>



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。